



こえいか

## 鎌倉流御詠歌を味わう2

コロナとのお付き合いも長くなりまして。宗禅寺でのご詠歌のお稽古もお休みが続いています。今号から慧光では御詠歌シリーズを再開致します。

### 【建長寺御本尊

身代わり地蔵菩薩縁起和讃

仰げ尊し建長寺 地蔵菩薩の御縁起は

仁治の二年夏の事 名越の住人佐衛門は

罪なき罪に召捕られ その名を聞くも恐しき

地獄の谷の刑場で あわや討たる折も折

只一筋に念ずるは 南無や大悲の地蔵尊

罪のあかしの立つよつに 南無や大慈の地蔵尊

その霊験はあらたかな 地蔵菩薩の本願か

太刀傷御身に受け給い 無実の罪を救わるる

それに因みて身代わりの 地蔵菩薩と称えたり

杉の木立の奥かく 建長寺を立てて今日までも

汲めどもつきぬ法の水 流れ流れて七百年

※仁治 — 元号 (1240~1243)

仁治↓寛元↓宝治↓建長と変遷する

## 心平寺地蔵堂と斉田地蔵尊

建長寺を訪れ、正面総門を入り、山門をくぐった先に仏殿があります。仏殿は建長寺の御本尊を祀っている建物で、お地蔵様が鎮座しています。現在仏殿に祀られているお地蔵様は、室町時代前期の建長寺炎上後に再興されたものであると云われていますが、建長寺創建当時のお地蔵様も背丈は約五メートルと大きなお地蔵様でした。

建長寺の御本尊がお地蔵様である由縁は、建長寺創建以前からのご因縁があります。建長寺のある場所は元々罪人を処刑する霊場で、地獄谷とも呼ばれていました。カンダタの蜘蛛の糸のお話しにもある通り、お地蔵さまは地獄に堕ちてしまった罪人をも救って下さる仏様です。罪を犯した罪人たちが、せめて処刑後の世界で救われるようにと、心平寺という地蔵堂があった場所なのです。その心平寺に祀られていたのが、斉田地蔵です。

その昔、斉田心左衛門というものがおり、無実の罪で処刑されそうになっておりました。執行人が刀で何度も切りつけますが、何かに当たって切ることができません。心左衛門は鬚に地蔵菩薩を忍ばせており、刀で切ることができなかつたのです。お地蔵様が身を呈して救って下さったというお話となり、一転して斉田心左衛門は無罪放免となりました。以後心平寺のお地蔵様は身代わり地蔵として信仰を集めたと云われています。

心平寺時代の地蔵堂は、現在横浜本牧の庭園、三溪園に移築され天授院と名を変えています。斉田地蔵は丁寧に保管され、毎年十一月初めの建長寺の風入れの際にお参りすることができます。

七百年という悠久の時間が経過した現在の建長寺には、かつての処刑場の面影もなく、実に清新な場所となりました。今日も仏殿からお地蔵さんが皆を見守って下さっています。

(宗禅寺 高井和正)